

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

昭和の初めに花開いた、野心あふれる音楽

山田一雄 / 須賀田礒太郎

Kazuo Yamada (1912-1991) / Isotaro Sugata (1907-1952)

山田耕作が、日本人による初の管弦楽曲とされる《序曲ニ長調》を書いたのは明治45年。それから30年ほど経った昭和の初めの日本では、日本人作曲家が本格的な管弦楽作品を生み出すようになっていました。山田一雄の《小交響詩「若者のうたへる歌」》も、須賀田礒太郎の《交響的序曲》も共にこの頃の作品で、個性あふれる充実した内容になっています。彼らの作品をはじめ、それらの多くを演奏したのがN響の前身、新交響楽団（のちに日本交響楽団）でした。N響100年の歴史は日本の作曲家と共に歩んだ歴史でもありました。

B
2026
MAY
[第2063回]

才能あふれる若き日の須賀田（手前）と山田。
今回の2人の作品を初演したのは新交響楽団であり、
山田はのちに日本交響楽団で専任指揮者を務めた

